

令和元年度事務事業評価シート(平成30年度実績)

◎基本情報

事務事業名	水域環境改善・浄化対策事業		担当部署	市民環境部 環境局 環境政策課		
総合計画体系			根拠法令 計画など	EM活性液培養装置貸与実施要綱・水質汚濁防止法		
基本政策(大項目)	3	しっかり安心・快適住み良いまちづくり	事業期間	開始	昭和	51年度
政策(中項目)	3	身近に自然を体感できるまち なんと			終期	未定
(小項目)		河川・海岸				
施策	4	自然環境に配慮した水辺空間の整備				
基本事業	2	水辺環境の保全と再生				

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 鳴門市全域の河川や水路等の水質						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	生活雑排水等で汚濁が進んでいる河川や水路の水質調査を実施するとともに、水質改善の方法を検討する。また、身近な水路において、EMを活用した水質浄化に取り組んでいく。						
事業計画	30年度に何を計画していたか	前年度からの取り組みを継続するとともに、EM活性液の認知度向上のため市民へ周知していくとともに、EM培養装置の新規貸与について、未設置の地域への働きかけを行うことで、鳴門市全域の河川における水質改善を目指す。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	単位
		EM培養装置貸与団体地区数	9	10	11	12	13	箇所

◎実施結果(DO)

事業実施内容	30年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	城見橋・木津神橋付近の公共用水域で毎月水質調査を実施、また市内各所における年1回の市内水質総合調査を実施した。EM培養装置について未設置地区の新規設置はなかったが、川東地区について機器を更新した。また市民団体等とともに新池川の水辺環境改善事業に取り組んだ。						
事業実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> その他							
指標名		29年度実績	30年度実績	元年度目標	2年度目標	3年度目標	単位	
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1	EM培養装置貸与団体地区数	8	8	11	12	13	箇所
	2	EM資材費	951	1,006	1,250	1,300	1,350	千円
成果指標 対象にどのような効果があったかを示す指標	EM培養装置貸与団体地区数		8	8	-	-	-	箇所
	目標達成率(実績/目標)			80.0	-	-	-	%
今年度の進捗状況	ほぼ計画どおり		事業全体の進捗状況			計画どおり		

(千円)

財源内訳	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
	平成30年度	当初予算額	0	0	0	1,000	2,018	3,018
		補正予算額	0	0	0	0	0	0
		繰越予算額	0	0	0	0	0	0
		全体予算額	0	0	0	1,000	2,018	3,018
		決算額	0	0	0	1,000	900	1,900
		繰越額	0	0	0	0	0	0
		人件費	正規職員(7,321千円/人)	臨時職員(2,125千円/人)		総人件費		総事業費
		0.1	0.0		732		2,632	

【鳴門市行政評価】

【事務事業名：水域環境改善・浄化対策事業】

事業費推移	年度	29年度決算	30年度決算	元年度	2年度	3年度
	事業費	1,881	1,900	3,186	3,186	3,186
	うち一般財源	1,881	900	1,386	3,186	3,186
	人件費	723	732	732	732	732
	総事業費	2,604	2,632	3,918	3,918	3,918

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値		所見欄
①活動に対する評価	有効性	B:概ね有効性があった		城見橋・木津神橋付近の公共用水域における毎月の水質調査、また市内各所で年1回実施する市内水質総合調査において、概ね水質の悪化は認められなかった。
	効率性	B:概ね効率的だった		市民団体との協働によりEM活性液を活用した河川の水質改善に取り組んだ。
②成果に対する評価	指標名	EM培養装置貸与団体地区数		EM培養装置の新規貸与はできなかったものの、貸与団体地区においては継続的にEM活性液製造に取り組めており、1地区においては装置を更新したことから概ね目標を達成したと判断する。
	目標	10	箇所	
	実績	8	箇所	
	評価	B:概ね目標を達成できた		
③総合的な評価		B		城見橋・木津神橋付近の公共用水域における毎月の水質調査、また市内各所で年1回実施する市内水質総合調査において、概ね水質の悪化は認められなかったほか、貸与団体地区は継続的にEM活性液製造に取り組んだ。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	EM培養装置について新規貸与がなく、未だ市内全域での設置には達していない。今後も市内全域の水質改善を目指して、装置貸与地区の増加に向けた周知と促進を図っていく必要がある。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	3
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	R1年度	前年度の取り組みを継続し、市全域の水質改善を目指す。			
	R2年度	前年度の取り組みを継続し、市全域の水質改善を目指す。			